

## ロシアの心理学史 (上) — 革命以前のロシア心理学

### サトウタツヤ

立命館大学文学部教授・研究部長。日本心理学会教育研究委員会資料保存小委員会委員長。最後の写真の女性が誰なのか、調べるために苦労しました。やっと分かったので、詳しくは次回に。次回もロシア心理学について扱います。



2014年5月24日、日本心理学会はロシア心理学会と相互交流に関するMOU(覚書)をとりかわしました。モスクワ大学のジンチェンコ教授が東北大学を訪問した機会をとらえて、日本心理学会にお招きしたことにより、覚書の締結式が可能になりました。写真1は常務理事会メンバーとの記念写真です。



写真1

今回お見えになったジンチェンコ教授は、MOU締結に先だって、ロシア心理学の過去・現状・未来について簡単なレクチャーをしてくださいました。ロシア、旧ソビエト連邦の心理学者といえば、パーヴロフ、ヴィゴツキ、ルリアなどの名前がすぐに思い浮かぶことでしょう。しかし、これらの心理学者よりも古い歴史があるのです。

ロシアの心理学の歴史は古く、モスクワ大学では1755年の設立当時から心理学に関する授業がなされていたようです。近代心理学が成立した19世紀の後半期には、グロート(Nikolai Grot; 1852-1899)やロパーチン(Lopatin, Lev Mikhailovich; 1855-1920)がモスクワ心理学会を設立しました(1885年)。初代会長にはトロイツキ(Troitskiy, Matvey Mikhailovich; 1835-1899)が選出されました。1889年には『哲学と心理学の諸

問題』誌が創刊され、初代編集委員長はグロート(Grot, Nikolay Yakovlevich; 1852-1899)でした。写真2は左から一人おいて、トルゥベツコイ、グロート、ロパーチンです。



写真2

ロシアにヴント流のドイツ実験心理学を導入したのはチェルパーノフ(Georgy Chelpanov; 1862-1936)でした(写真3)。チェルパーノフはノボロシスク大学でグロートから哲学ならびに人文学を学んだ後にドイツ留学を果たし、ヴントやシュトゥンプらに心理学を学びました。



写真3

チェルパーノフは帰国後にモスクワ大学で実験心理学の興隆をめざし『実験心理学講座』という本を執筆して1909年に出版しました。その頃、篤志家が現れ心理学の研究支援を申し出るという出来事があったため、その支援をうけて1912年には心理学研究所が設立されることになりました。写真4は、当時の心理学実験室の様子です。机の上右側には音声スイッチがあり、クロノトープも見えます。



写真4

チェルパーノフが右から三人目に確認できます。左側には、音叉やリゾネーター(共鳴器)を確認することができ、ヴント流の実験心理学が始まりつつあること、その中心にチェルパーノフがいたことがわかります。左から四番目の女性はラディーギナーコーツ(Ladygina-Kots, Nadezhda Nikolayevna; 1889-1963)です。後に動物心理学者・進化心理学者として活躍した人物です。

しかし、1917年にロシア革命が成就すると、事態は思わぬ方向へと推移していきます。彼の立場は観念論的であって唯物論的ではないとして批判をうけることになり、学界主流からは外される趨勢となったのです。チェルパーノフは、第1回ロシア心理生理学会議(1923)を期としてモスクワ心理学研究所長の座を後進に譲り、失権したとされています。

なお、革命後の政府/体制側から、唯物論的であるとして重用されることになったのは、反射によって人間の行動を理解しようというベヒテレフ(Bekhterev, Vladimir Mikhailovich; 1857-1927)の心理学でした。